

静岡県月例経済報告

(令和2年1月号)

……令和元年11月を中心とした県内経済のすがた……

No. 525

— 静岡県経済産業部 —

目 次

I 静岡県経済の概況	1
II 静岡県主要経済指標の概況	4
・需要面	4
・生産面	12
・雇用面	14
・その他	17
III 静岡県主要産業の動向	21
IV データからみた県内主要産業	24

利用にあたって

- 1 本月報は、本県経済の状況について、経済統計及び産業動向をとりまとめたものである。
- 2 本月報は4部から構成されている。
- 3 第1部では、本県経済の概況について経済統計データを中心に述べているが、指標によっては当該月データが未公表のため前月値を用いる場合がある。これらの指標は文中に示している。
- 4 第2部では、本県経済の動向について主要経済指標を用いて、データとグラフで示している。
- 5 第3部では、本県の主要産業動向について簡単にまとめている。
- 6 第4部では、本県の主要産業動向についてデータで示している。
- 7 本月報で用いた ▲はマイナスを表している。
- 8 数字の単位未満は四捨五入することを基本としているが、情報提供元の公表方法に準拠させている。

この「静岡県月例経済報告」は、静岡県経済産業部のインターネット・ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス(URL) <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/>

I 静岡県経済の概況

〔本稿は、令和元年11月を中心とした経済統計及び企業ヒアリングをもとに取りまとめている。〕

概況

令和元年11月を中心とした静岡県の景気は、緩やかに回復しているが、このところ弱い動きとなっている。

先行きについては、意欲的な設備投資計画などを背景に、景気回復の動きが期待されるものの、消費税率引き上げの影響や海外の政治経済情勢などに注意する必要がある。

雇用情勢は、改善の動きを続けている。

- ・個人消費は、緩やかに持ち直している。
- ・設備投資は、増加の動きがみられる。
- ・輸出は、減少している。
- ・生産は、減少している。

需要面

「個人消費は、緩やかに持ち直している」

大型小売店販売額(11月)は、百貨店、スーパーがいずれも2か月連続で前年実績を下回ったことから、総額でも2か月連続で前年実績を下回った。

専門量販店等販売額(11月)は、コンビニエンスストアが2か月連続、ドラッグストアが2か月ぶりに前年実績を上回ったものの、家電大型専門店、ホームセンターがいずれも2か月連続で前年実績を下回った。総額では、前年実績と同水準だった。

自動車(新車)新規登録台数(11月)は、乗用車、軽自動車がいずれも2か月連続で前年実績を下回ったことから、総数でも2か月連続で前年実績を下回った。

「住宅建設は、前年を下回った」

新設住宅着工戸数(11月)は、持家が5か月連続、貸家が3か月連続、分譲住宅が2か月ぶりに前年実績を下回ったことから、全体でも5か月連続で前年実績を下回った。

「公共投資は、前年を上回った」

公共工事請負金額(11月)は、8か月連続で前年実績を上回った。

「設備投資は、増加の動きがみられる」

日銀短観(令和元年12月13日)の令和元年度の設備投資(含む土地投資)(計画)は、製造業で増加、非製造業で減少し、全産業では増加する計画となっている。

また、ソフトウェア・研究開発を含む設備投資(除く土地投資)(計画)は、製造業で増加、非製造業で減少し、全産業では増加する計画となっている。

着工建築物床面積(非居住用)(11月)は、2か月連続で前年実績を上回った。

「輸出は、減少している」

「輸入は、前年を下回った」

輸出総額（11月）は、自動車^が8か月ぶり、二輪自動車類^が3か月連続、科学光学機器^が6か月連続で前年実績を上回ったものの、原動機^が4か月連続、エアコン^が3か月連続、自動車の部分品^が8か月連続で前年実績を下回ったことから、総額でも2か月ぶりに前年実績を下回った。

また、輸入総額（11月）は、木材^が4か月ぶりに前年実績を上回ったものの、魚介類及び同調製品^が4か月連続、パルプ^が2か月連続、紙類及び同製品^が2か月ぶり、原動機^が8か月ぶり、自動車の部分品^が8か月連続で前年実績を下回ったことから、総額でも7か月連続で前年実績を下回った。

なお、輸出入のバランスは、852億円の輸出超過となった。

生産面

「生産は、減少している」

鉱工業生産指数（10月）は、はん用・生産用・業務用機械^が2か月ぶりに前年水準を上回ったものの、電気機械、パルプ・紙・紙加工品^がいずれも3か月連続、輸送機械^が9か月連続、化学、食料品・たばこ^がいずれも2か月ぶりに前年水準を下回ったことから、総合でも5か月連続で前年水準を下回った。また、前月比は2か月ぶりに低下した。

なお、鉱工業在庫指数（10月）は、総合では2か月連続で前年水準を下回った。

雇用面

「雇用情勢は、改善の動きを続けている」

有効求人倍率（11月）は1.45倍で、前月を0.06ポイント下回った。また、70か月連続で1倍を上回った。なお、8か月連続で全国値を下回った。

雇用保険受給者実人員（11月）は、3か月連続で前年実績を上回った。

また、所定外労働時間指数（10月）は、9か月連続で前年実績を下回った。

その他

「金融環境は、貸出残高は前年を下回り、信用保証金額は前年を上回った」

県内金融機関の貸出残高（11月）は、前年同月比 1.5%減と前年実績を下回った。

信用保証協会保証金額（11月）は、前年同月比 14.8%増と前年実績を上回った。

「企業倒産は、件数は前年を下回り、負債総額の前年を上回った」

企業倒産（12月）は、件数は12件（前年同月比 29.4%減）と、前年実績を下回り、負債総額は412億8,900万円（同 1,588.8%増）と、前年実績を上回った。

<トピックス> 水産イノベーションの推進による本県水産業の新たな展開

【背景】

近年、本県においては、沿岸漁業を中心に不漁が深刻化しており、漁業就業者数も減少が続いている。このような中においても「利益を生み出せる構造」を創出するため、県では、今年度（R元年度）から、「水産振興」、「資源管理」、「人材確保」の各分野で、やる気のある経営体の新しいアイデアを積極的に支援する「水産イノベーション対策支援推進事業」を開始した。

【事業概要】

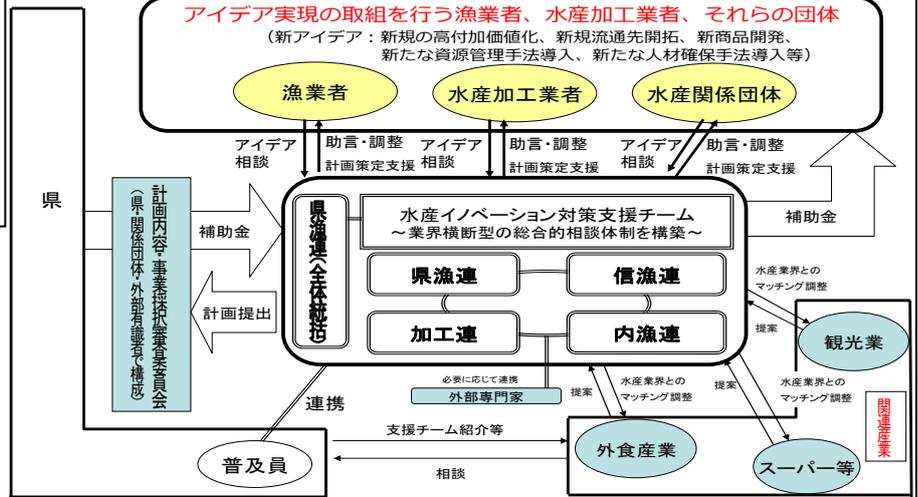
- 採択要件は、原則、「新しいアイデア」のみ
- 「個別の事業者」に直接支援
- アイデア実現のための「業界横断的な相談体制」の設置

令和元年は、事業1年目にもかかわらず、**「71件」**の事業を採択

水産イノベーション対策支援(イメージ図)

～関係団体が連携した初の総合的相談体制の構築による業界全体の活性化の推進～

アイデア実現の取組を行う漁業者、水産加工業者、それらの団体
(新アイデア：新規の高付加価値化、新規流通先開拓、新商品開発、新たな資源管理手法導入、新たな人材確保手法導入等)



【取組事例と方向性】

①水産振興の取組

申請者	漁業協同組合
目的	規格外（サイズ大）シラスの魚価向上
取組内容	農協、加工業者と連携し、規格外サイズのシラスを使用した新商品を開発

規格外シラスと地場の馬鈴薯を使用した新商品を開発

目指す効果	
3年後	
新商品の売上	5,000千円
取扱店舗	10店舗

②資源管理の取組

申請者	漁業協同組合
目的	キンメダイの食害対策となるパラムツの駆除
取組内容	パラムツ捕獲のための専用漁具の製作、各船装備による食害被害に即応した捕獲の実現

目指す効果	
3年後	
パラムツ捕獲	200尾

③人材確保の取組

申請者	水産加工関係団体
目的	業界団体における労働力不足解消
取組内容	組織の法人化（一般社団）により、特定技能外国人登録支援機関として登録申請し、外国人労働者受入の窓口となる。

目指す効果	
3年後	
外国人労働者受入れ	100名

業界全体の前向き感の創出

Ⅱ 静岡県主要経済指標の概況

需 要 面

1 個人消費

(1) 大型小売店販売額

11月 = 33,275百万円

*前年同月比： 1.9%減

(県内3百貨店、134スーパー合計)

<概況>

11月の大型小売店販売額は33,275百万円で、前年同月比 1.9%減となり、2か月連続で前年実績を下回った。

業態別にみると、百貨店（前年同月比 6.5%減）、スーパー（同 0.7%減）がいずれも2か月連続で前年実績を下回った。

商品別では、衣料品（前年同月比 3.2%減）、身の回り品（同 9.8%減）、飲食料品（同 0.4%減）、家庭用品（同 2.0%減）がいずれも2か月連続で前年実績を下回った。

なお、店舗数調整前の前年同月比は1.0%減と、2か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
販売額(百万円)	31,906	32,493	33,195	33,415	34,021	35,248	31,310	33,275
前年同月比(%)	▲2.0	▲2.4	▲2.0	▲5.8	▲1.4	7.0	▲7.5	▲1.9
うち百貨店(%)	▲3.3	▲8.6	▲5.4	▲8.8	▲2.7	18.2	▲20.5	▲6.5
スーパー(%)	▲1.7	▲0.9	▲1.2	▲5.0	▲1.1	4.5	▲4.5	▲0.7
(参考1)全国前年同月比(%)	▲1.8	▲0.5	▲0.5	▲4.8	0.4	10.0	▲8.2	▲1.8
うち百貨店(%)	▲1.5	▲1.1	▲1.2	▲3.3	2.0	22.8	▲16.4	▲4.8
スーパー(%)	▲1.9	▲0.2	▲0.1	▲5.5	▲0.2	4.4	▲4.3	▲0.2
(参考2)県前年同月比(店舗数調整前)	▲1.0	▲1.4	▲0.5	▲5.1	0.5	8.9	▲6.3	▲1.0

(注)販売額は店舗数未調整、前年同月比は店舗数調整済、全月速報値

<資料>経済産業省

<商品別前年同月比の推移>

(単位：%)

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
衣料品	▲7.3	▲2.4	▲2.2	▲12.1	0.9	14.0	▲16.8	▲3.2
うち紳士服・洋品	▲6.8	▲0.1	▲3.4	▲13.7	4.1	9.4	▲14.3	▲0.1
婦人・子供服・洋品	▲7.7	▲2.5	▲2.0	▲11.3	1.4	14.7	▲17.4	▲4.5
身の回り品	▲8.2	▲6.7	▲4.4	▲11.6	1.4	22.3	▲23.6	▲9.8
飲食料品	0.3	▲1.7	▲1.4	▲3.2	▲1.6	0.1	▲2.7	▲0.4
家庭用品	▲2.4	▲2.5	2.9	▲12.6	1.0	20.8	▲14.6	▲2.0
うち家庭用電気機械器具	12.2	16.0	17.6	▲13.1	24.6	38.3	▲16.0	▲8.6

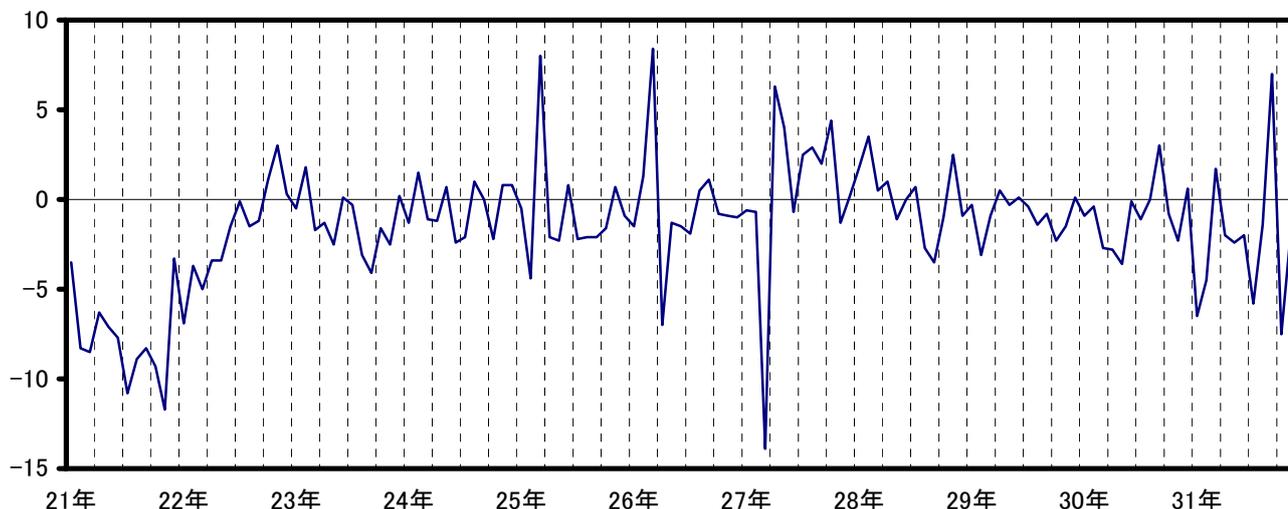
(注)店舗数調整済、全月速報値

<資料>経済産業省

<過去10年間の推移>

大型小売店販売額前年同月比(%)

<資料>経済産業省



(2) 専門量販店等販売額

11月 = 65,296百万円

*前年同月比： 同水準

(県内89家電大型専門店、1,685コンビニエンスストア、497ドラッグストア、107ホームセンター合計)

<概況>

11月の専門量販店等販売額は65,296百万円で、前年実績と同水準だった。
業態別にみると、コンビニエンスストア（前年同月比 2.1%増）が2か月連続、ドラッグストア（同 1.1%増）が2か月ぶりに前年実績を上回ったものの、家電大型専門店（同 6.9%減）、ホームセンター（同 4.1%減）がいずれも2か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
販売額(百万円)	67,913	69,548	68,690	72,912	75,575	77,006	64,524	65,296
前年同月比(%)	1.9	3.4	2.9	▲ 5.1	4.8	15.3	▲ 3.7	0.0
うち 家電大型専門店(%)	0.8	7.2	8.4	▲ 14.6	14.9	49.0	▲ 15.9	▲ 6.9
コンビニエンスストア(%)	2.0	2.1	1.1	▲ 3.5	0.7	▲ 0.2	2.3	2.1
ドラッグストア(%)	4.8	5.0	4.6	▲ 0.4	6.4	21.6	▲ 5.5	1.1
ホームセンター(%)	▲ 4.2	1.2	▲ 0.5	▲ 10.3	5.5	23.9	▲ 9.3	▲ 4.1
(参考)全国前年同月比(%)	1.6	4.3	3.1	▲ 3.0	5.8	15.6	▲ 1.4	0.7

(注1) 販売額、前年同月比は店舗数未調整

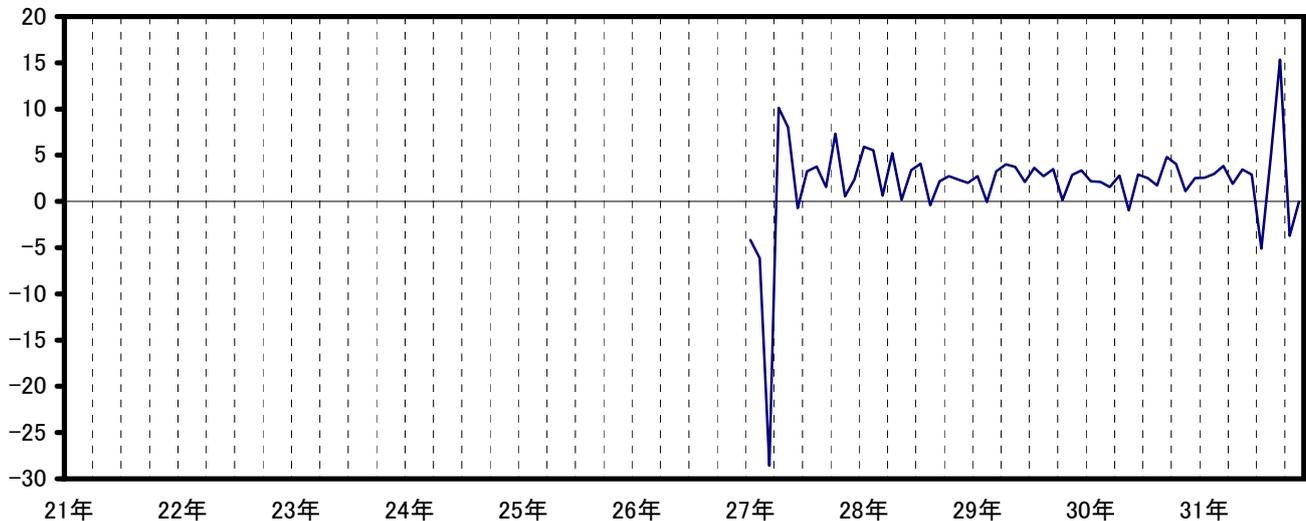
<資料>経済産業省

(注2) 平成28年7月からコンビニエンスストアの販売額を追加

<過去10年間の推移>

専門量販店等販売額前年同月比(%)

<資料>経済産業省



(3) 自動車(新車)新規登録台数

11月 = 12,913 台

*前年同月比： 12.3%減

(乗用車、軽自動車合計)

<概況>

11月の自動車(新車)新規登録台数は12,913台(前年同月比 12.3%減)と、2か月連続で前年実績を下回った。

車種別にみると、乗用車(前年同月比 18.3%減)、軽自動車(同 4.5%減)がいずれも2か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
登録台数(台)	12,617	13,456	15,436	15,791	12,987	18,730	10,962	12,913
前年同月比(%)	6.2	9.1	▲ 1.2	8.0	8.1	11.7	▲ 22.2	▲ 12.3
(参考)全国前年同月比(%)	3.3	6.4	▲ 2.2	2.9	4.9	13.6	▲ 25.1	▲ 11.6

<資料>県税務課、日本自動車販売協会連合会

<車種別(新車)新規登録台数前年同月比の推移>

(単位：%)

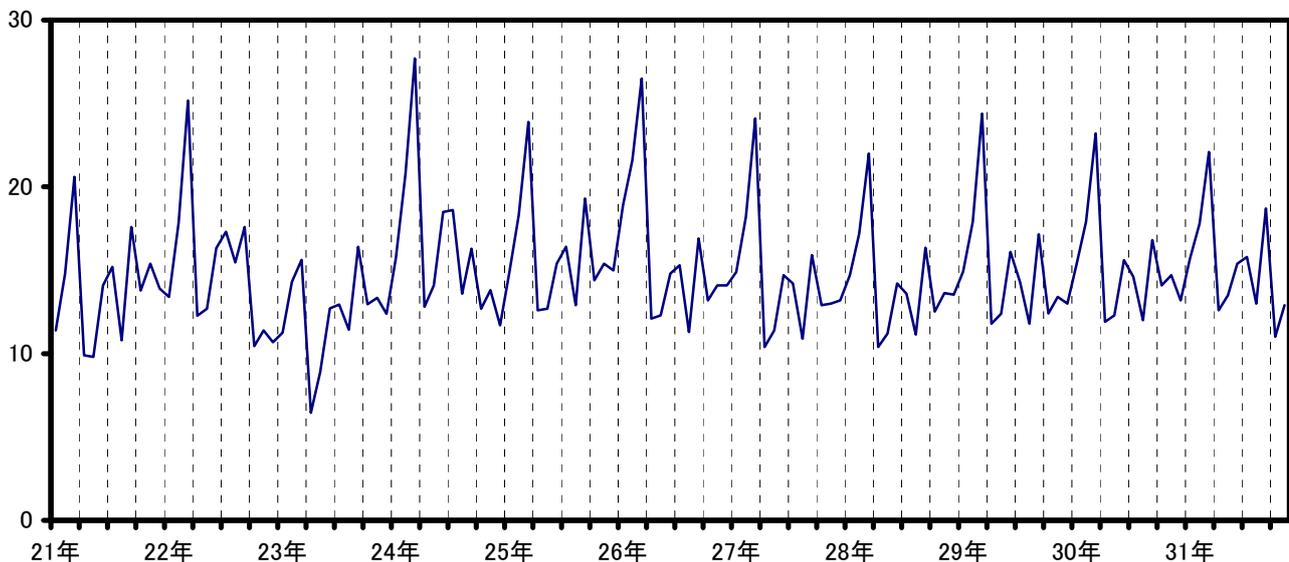
	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全乗用車	6.2	9.1	▲ 1.2	8.0	8.1	11.7	▲ 22.2	▲ 12.3
乗用車	4.3	3.1	▲ 5.3	6.5	0.8	10.4	▲ 28.1	▲ 18.3
軽自動車	8.4	17.0	4.0	9.9	17.2	13.4	▲ 15.1	▲ 4.5

<資料>県税務課

<過去10年間の推移>

自動車(新車)新規登録台数(千台)

<資料>県税務課



(注)全国前年同月比は乗用車+軽乗用車

2 新設住宅着工戸数

11月 = 1,539 戸

*前年同月比： 21.1%減

<概況>

11月の新設住宅着工戸数は1,539戸で、前年同月比 21.1%減と、5か月連続で前年実績を下回った。

利用関係別にみると、持家（前年同月比 7.6%減）が5か月連続、貸家（同 46.8%減）が3か月連続、分譲住宅（同 11.7%減）が2か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

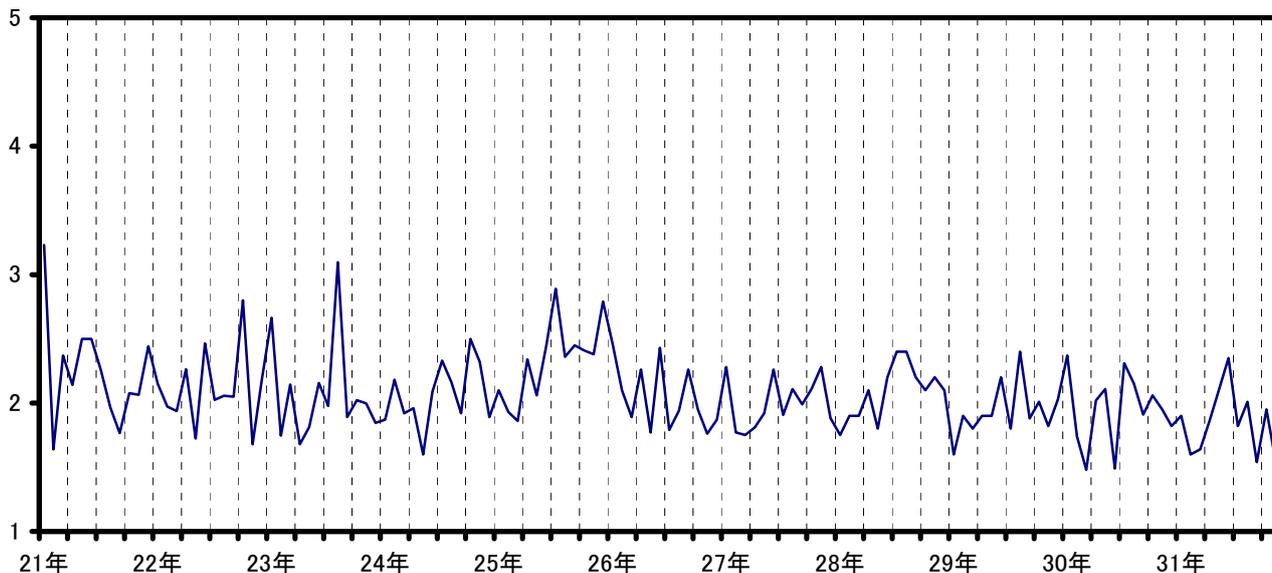
	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
戸数 (戸)	1,855	2,110	2,349	1,821	2,013	1,536	1,951	1,539
前年同月比 (%)	▲ 7.9	0.1	57.8	▲ 21.1	▲ 6.5	▲ 19.5	▲ 5.2	▲ 21.1
うち持家 (%)	0.1	11.0	34.5	▲ 2.8	▲ 4.8	▲ 6.6	▲ 3.3	▲ 7.6
貸家 (%)	▲ 35.0	▲ 26.6	96.6	▲ 33.0	0.0	▲ 32.1	▲ 25.3	▲ 46.8
分譲住宅 (%)	23.8	20.4	74.7	▲ 45.2	▲ 19.2	▲ 35.3	30.4	▲ 11.7
(参考)全国前年同月比 (%)	▲ 5.7	▲ 8.7	0.3	▲ 4.1	▲ 7.1	▲ 4.9	▲ 7.4	▲ 12.7

<資料>県住まいづくり課

<過去10年間の推移>

新設住宅着工戸数(千戸)

<資料>県住まいづくり課



3 公共工事請負金額

11月 = 17,066百万円

*前年同月比：15.1%増

(建設保証会社保証実績)

<概況>

11月の公共工事の請負金額(工事場所ベース)は17,066百万円で、前年同月比15.1%増となり、8か月連続で前年実績を上回った。また、取扱い件数(工事場所ベース)は675件で、前年同月比2.2%減となり、2か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
金額(百万円)	81,539	32,518	41,211	42,486	30,036	64,202	33,436	17,066
前年同月比(%)	32.7	6.0	35.3	42.9	5.9	55.9	40.2	15.1
年度累計前年同月比(%)	32.7	23.8	26.6	29.8	26.1	31.6	32.4	31.4
件数(件)	559	573	670	881	761	1,076	931	675
前年同月比(%)	▲4.6	1.6	▲5.2	1.0	▲11.2	▲9.2	26.2	▲2.2
年度累計前年同月比(%)	▲4.6	▲1.6	▲3.0	▲1.7	▲4.0	▲5.3	▲1.1	▲1.2

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

<発注者別請負金額前年同月比の推移>

(単位：%)

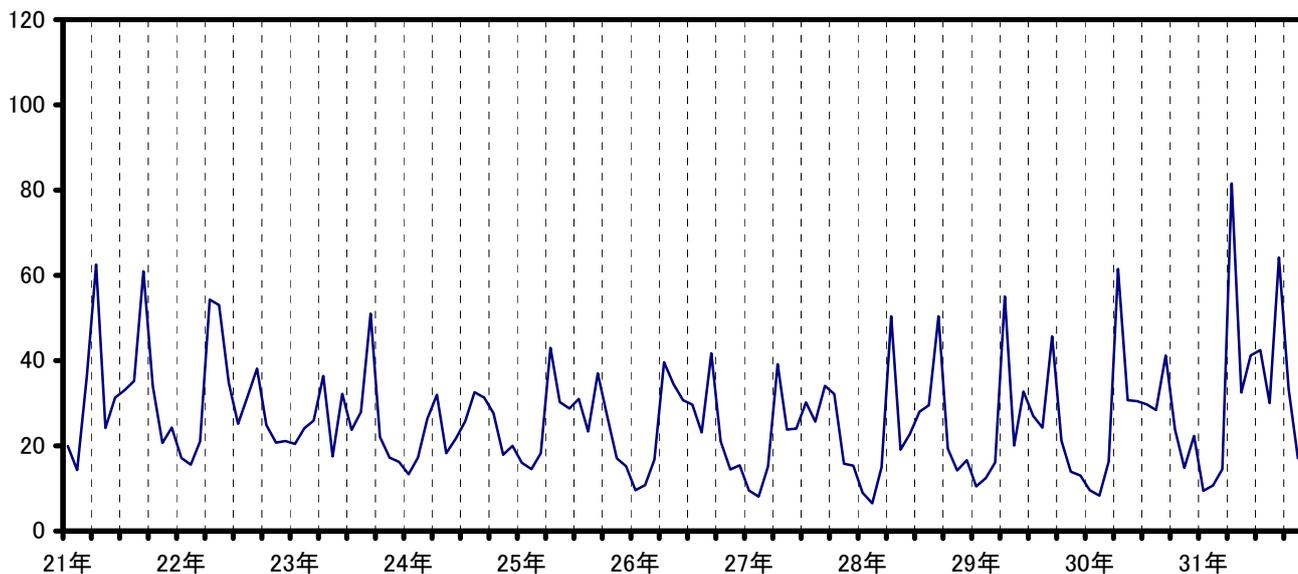
	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
国	64.0	▲61.3	1.0	27.0	60.8	11.9	194.5	30.5
独立行政法人等	53.4	206.6	162.1	44.7	41.5	257.1	▲79.6	66.2
県	▲14.7	16.6	22.6	43.4	▲14.4	16.6	142.7	83.1
市町	42.6	66.0	0.9	46.5	6.5	6.3	4.7	▲2.1
地方公社	2.1	▲94.4	974.1	351.9	1,143.7	▲8.8	308.0	▲9.7
その他	34.2	▲56.3	308.9	59.0	▲6.6	175.8	91.5	▲73.6

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

<過去10年間の推移>

公共工事請負金額(十億円)

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店



4 設備投資

<概況>

平成30年度の設備投資（含む土地投資）は、製造業で減少、非製造業で増加し、全産業で増加の実績となっている。ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）は、製造業、非製造業、全産業の全てにおいて増加の実績となっている。

令和元年度の設備投資（含む土地投資）は、製造業（前年度比 19.2%増）で増加、非製造業（同 7.4%減）で減少し、全産業（同 5.8%増）では増加する計画となっている。また、ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）は、製造業（前年度比 9.3%増）で増加、非製造業（同 5.6%減）で減少し、全産業（同 5.1%増）では増加する計画となっている。

11月の着工建築物床面積（非居住用）は118,282㎡で、前年同月比 35.4%増となり、2か月連続で前年実績を上回った。

<企業短期経済観測調査結果>（前年度比% 設備投資（含む土地投資）

		30年度 (実績)	R元年度 (計画)
全産業	県	5.7	(▲5.3) 5.8
	全国	6.6	(0.8) 3.3
製造業	県	▲2.1	(▲4.3) 19.2
	全国	8.6	(▲0.5) 6.8
非製造業	県	14.7	(▲6.6) ▲7.4
	全国	5.4	(1.6) 1.2

（ ）内は前回調査比修正率 ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）

		30年度 (実績)	R元年度 (計画)
全産業	県	7.2	(▲4.2) 5.1
	全国	5.1	(▲0.3) 5.0
製造業	県	4.4	(▲3.1) 9.3
	全国	5.8	(▲0.8) 5.4
非製造業	県	15.3	(▲7.4) ▲5.6
	全国	4.4	(0.3) 4.7

（注1）平成29年3月調査分から半期計数の掲載を取り止め、年度計数のみを掲載

（注2）平成29年3月調査分から「ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）」を追加

<資料>日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果(令和元年12月調査)」

日本銀行調査統計局「全国企業短期経済観測調査」(令和元年12月調査)」

<最近の動き>

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
着工建築物床面積（非居住用）（㎡）	79,421	149,579	162,872	106,559	118,214	91,195	189,974	118,282
前年同月比（%）	▲19.9	▲16.8	19.7	▲62.6	▲23.1	▲61.5	64.0	35.4
(参考) 全国前年同月比（%）	▲4.0	▲0.5	1.7	0.4	▲5.1	▲18.4	▲14.8	▲9.7

（注3）着工建築物床面積は公共と民間の合計のうち、非居住用

<資料>国土交通省

<参考 県内企業の業況判断D. I. >

		R元年9月	12月	R2年3月 (予測)
全産業		4	▲1	▲4
	製造業	▲3	▲10	▲13
	非製造業	9	6	3
(参考) 全国・全産業		8	4	0

（注4）業況判断D. I. : 「良い」-「悪い」回答社数構成比%ポイント

<資料> 日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果(令和元年12月調査)」

5 輸出

11月 = 176,430百万円

*前年同月比： 2.0%減

(清水税関支署管内通関実績)

<概況>

11月の清水税関支署管内の輸出総額は176,430百万円で、前年同月比 2.0%減となり、2か月ぶりに前年実績を下回った。

主要な品目別にみると、自動車（前年同月比 12.8%増）が8か月ぶり、二輪自動車類（同 13.3%増）が3か月連続、科学光学機器（同 8.8%増）が6か月連続で前年実績を上回ったものの、原動機（同 13.3%減）が4か月連続、エアコン（同 30.0%減）が3か月連続、自動車の部分品（同 10.2%減）が8か月連続で前年実績を下回った。

地域別にみると、EU向け（前年同月比 11.8%増）が2か月連続で前年実績を上回ったものの、米国向け（同 7.5%減）が4か月連続、アジア向け（同 3.7%減）が2か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
輸出総額(百万円)	170,166	152,438	176,901	207,660	162,445	163,977	187,482	176,430
前年同月比(%)	▲9.7	▲3.6	▲8.4	13.6	▲6.8	▲14.8	0.5	▲2.0

<資料>清水税関支署

<主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
原動機	▲4.6	22.3	14.8	16.4	▲16.0	▲28.2	▲11.5	▲13.3
エアコン	▲16.0	▲7.8	▲28.8	▲7.9	0.1	▲26.2	▲0.8	▲30.0
自動車	▲38.3	▲27.5	▲18.9	▲5.8	▲13.2	▲29.0	▲10.9	12.8
自動車の部分品	▲13.0	▲13.0	▲17.4	▲14.7	▲16.9	▲23.7	▲16.2	▲10.2
二輪自動車類	▲31.8	▲13.2	▲16.0	10.0	▲2.1	21.4	37.1	13.3
科学光学機器	25.9	0.0	19.4	43.8	41.0	19.1	31.1	8.8

<資料>清水税関支署

<地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
アジア	▲4.0	▲4.1	▲13.2	▲1.7	▲2.8	▲13.5	0.2	▲3.7
米国	3.4	3.9	2.1	58.6	▲14.7	▲14.1	▲10.9	▲7.5
EU	▲24.0	▲5.3	6.8	11.4	▲4.4	▲16.7	22.2	11.8

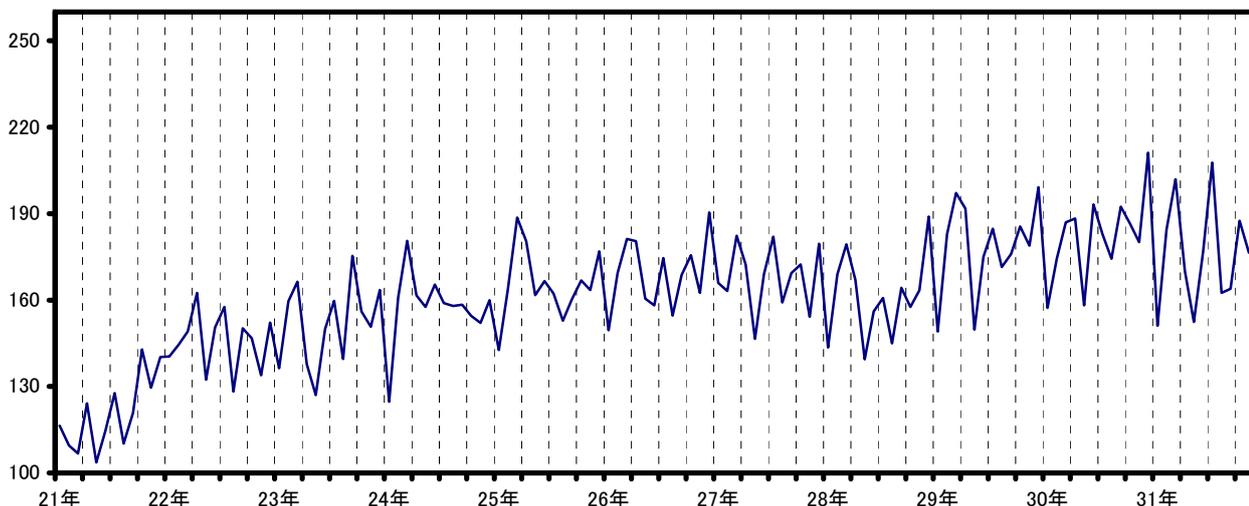
<資料>清水税関支署

(注) 管内とは、清水港(焼津、沼津、浜松、興津の各出張所及び下田監視所含む)、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4つをいう。
なお、数値は、通関手続きが行われた金額である。輸入も同様。

<過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸出額(十億円)

<資料>清水税関支署



6 輸入

11月 = 91,225百万円

*前年同月比： 6.0%減

(清水税関支署管内通関実績)

<概況>

11月の清水税関支署管内の輸入総額は91,225百万円で、前年同月比 6.0%減となり、7か月連続で前年実績を下回った。

主要な品目別にみると、木材（同 11.4%増）が4か月ぶりに前年実績を上回ったものの、魚介類及び同調製品（同 10.8%減）が4か月連続、パルプ（同 33.9%減）が2か月連続、紙類及び同製品（前年同月比 14.5%減）が2か月ぶり、原動機（同 15.4%減）が8か月ぶり、自動車の部分品（同 40.3%減）が8か月連続で前年実績を下回った。

地域別では、アジアから（前年同月比 10.1%減）、米国から（同 8.2%減）がいずれも2か月連続、EUから（同 27.1%減）が4か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
輸入総額(百万円)	101,284	95,922	87,418	91,544	83,231	83,673	86,677	91,225
前年同月比(%)	8.0	▲2.4	▲0.5	▲4.6	▲6.9	▲1.2	▲17.5	▲6.0

<資料>清水税関支署

<主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
魚介類及び同調製品	21.8	9.1	▲18.9	4.3	▲25.5	▲7.0	▲18.3	▲10.8
木材	1.6	19.4	▲3.0	14.8	▲18.3	▲1.7	▲14.5	11.4
パルプ	▲3.8	▲5.7	6.3	▲38.3	▲0.8	5.4	▲43.8	▲33.9
紙類及び同製品	17.9	▲2.2	▲1.5	24.7	26.7	▲8.0	9.8	▲14.5
原動機	45.7	10.0	60.3	34.9	0.9	67.2	1.0	▲15.4
自動車の部分品	▲14.0	▲11.9	▲16.8	▲41.8	▲34.8	▲20.5	▲42.5	▲40.3

<資料>清水税関支署

<地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

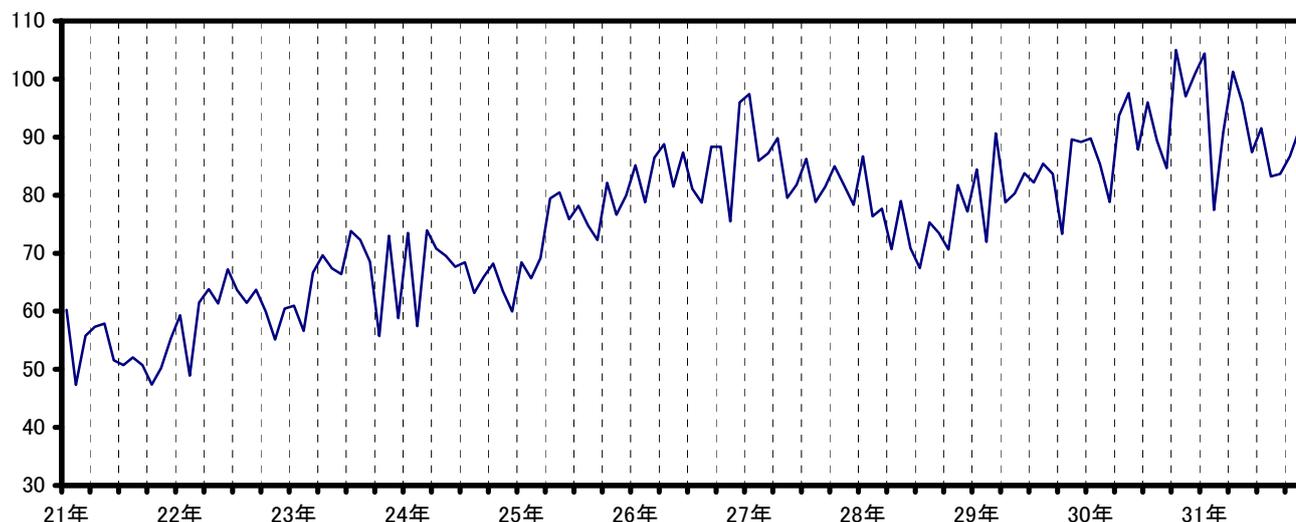
	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
アジア	8.9	▲8.0	0.9	▲3.3	▲10.8	10.0	▲10.8	▲10.1
米国	▲20.4	13.9	51.3	46.2	▲24.1	19.9	▲3.2	▲8.2
EU	42.2	9.0	▲20.0	12.3	▲22.6	▲2.0	▲37.4	▲27.1

<資料>清水税関支署

<過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸入額(十億円)

<資料>清水税関支署



生産面

1 生産

(1) 鉱工業生産指数

10月 = 99.7

(平成27年=100、鉱工業総合、季節調整済指数)

*前月比(季節調整済指数) : 0.5%減

*前年同月比(原指数) : 7.1%減

<概況>

10月の鉱工業生産指数(総合)は99.7(季節調整済指数)で、前月比0.5%減と、2か月ぶりに低下した。また、前年同月比(原指数)は7.1%減と、5か月連続で前年水準を下回った。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前年同月比1.8%増)が2か月ぶりに前年水準を上回ったものの、電気機械(同11.4%減)、パルプ・紙・紙加工品(同8.6%減)がいずれも3か月連続、輸送機械(同10.3%減)が9か月連続、化学(同0.9%減)、食料品・たばこ(同6.4%減)がいずれも2か月ぶりに前年水準を下回った。

<最近の動き>

	31年3月	4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月
指数	102.4	103.9	104.4	98.5	102.3	98.0	100.2	99.7
前月比(%)	1.1	1.5	0.5	▲5.7	3.9	▲4.2	2.2	▲0.5
前年同月比(%)	▲0.2	3.0	1.5	▲6.4	▲0.6	▲8.2	▲4.9	▲7.1
(参考)全国前年同月比(%)	▲4.6	▲1.1	▲1.8	▲4.1	0.7	▲4.7	1.1	▲7.7

(注)平成27年=100、鉱工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課、経済産業省

<県内業種別鉱工業生産指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	31年3月	4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月
はん用・生産用・業務用機械工業	1.0	17.2	16.2	1.4	21.1	5.4	▲7.6	1.8
電気機械工業	1.2	1.3	4.5	▲3.1	0.8	▲17.3	▲14.6	▲11.4
輸送機械工業	▲3.9	▲1.3	▲4.3	▲18.5	▲11.8	▲12.6	▲10.6	▲10.3
化学工業	0.0	11.1	▲5.3	0.8	2.0	▲6.4	5.4	▲0.9
パルプ・紙・紙加工品工業	▲2.4	▲2.6	▲6.0	▲5.3	4.3	▲14.1	▲7.7	▲8.6
食料品・たばこ工業	5.5	▲0.2	9.6	▲0.1	4.8	▲0.6	5.0	▲6.4

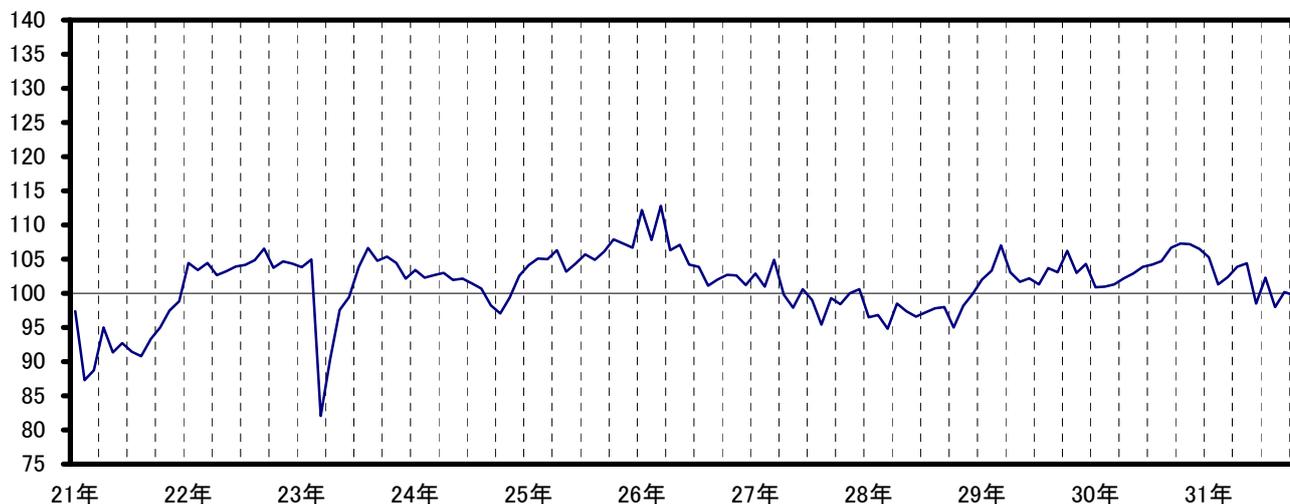
(注)平成27年=100、鉱工業総合、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

鉱工業生産指数(総合、平成27年=100)

<資料>県統計調査課



(2) 鋳工業在庫指数

10月 = 107.6

(平成27年=100、鋳工業総合、季節調整済指数)

*前月比(季節調整済指数) : 2.2%増

*前年同月比(原指数) : 3.2%減

<概況>

10月の鋳工業在庫指数(総合)は107.6(季節調整済指数)で、前月比は2.2%増と、2か月ぶりに上昇した。また、前年同月比(原指数)は3.2%減と、2か月連続で前年水準を下回った。なお、在庫動向を在庫循環図でみると、今期は「在庫調整局面(景気後退期)」に該当する。業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前年同月比 24.9%増)が10か月連続、電気機械(同 2.6%増)が6か月連続、食料品・たばこ(同 6.6%増)が8か月連続で前年水準を上回ったものの、輸送機械(同 18.7%減)が10か月連続、化学(同 8.8%減)、パルプ・紙・紙加工品(同 1.6%減)がいずれも2か月連続で前年水準を下回った。

<最近の動き>

	31年3月	4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月
指数	114.8	111.4	106.4	105.0	105.9	110.5	105.3	107.6
前月比(%)	5.6	▲2.0	▲4.2	0.8	0.7	2.6	▲4.4	2.2
前年同月比(%)	2.0	3.1	▲2.6	0.5	1.5	1.1	▲9.5	▲3.2
(参考)全国前年同月比(%)	0.4	1.2	1.6	2.9	2.4	2.7	0.7	2.6

(注)平成27年=100、鋳工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課、経済産業省

<県内業種別鋳工業在庫指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	31年3月	4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月
はん用・生産用・業務用機械工業	16.6	29.3	26.2	19.9	22.1	23.2	22.9	24.9
電気機械工業	0.3	▲0.3	9.9	9.0	13.2	9.0	7.4	2.6
輸送機械工業	▲38.2	▲32.4	▲35.0	▲32.8	▲33.8	▲24.8	▲47.9	▲18.7
化学工業	15.2	9.6	▲8.2	8.4	0.7	3.5	▲17.4	▲8.8
パルプ・紙・紙加工品工業	▲1.5	▲3.1	1.3	2.2	6.9	2.3	▲7.5	▲1.6
食料品・たばこ工業	11.9	12.4	3.7	7.3	24.7	19.0	16.0	6.6

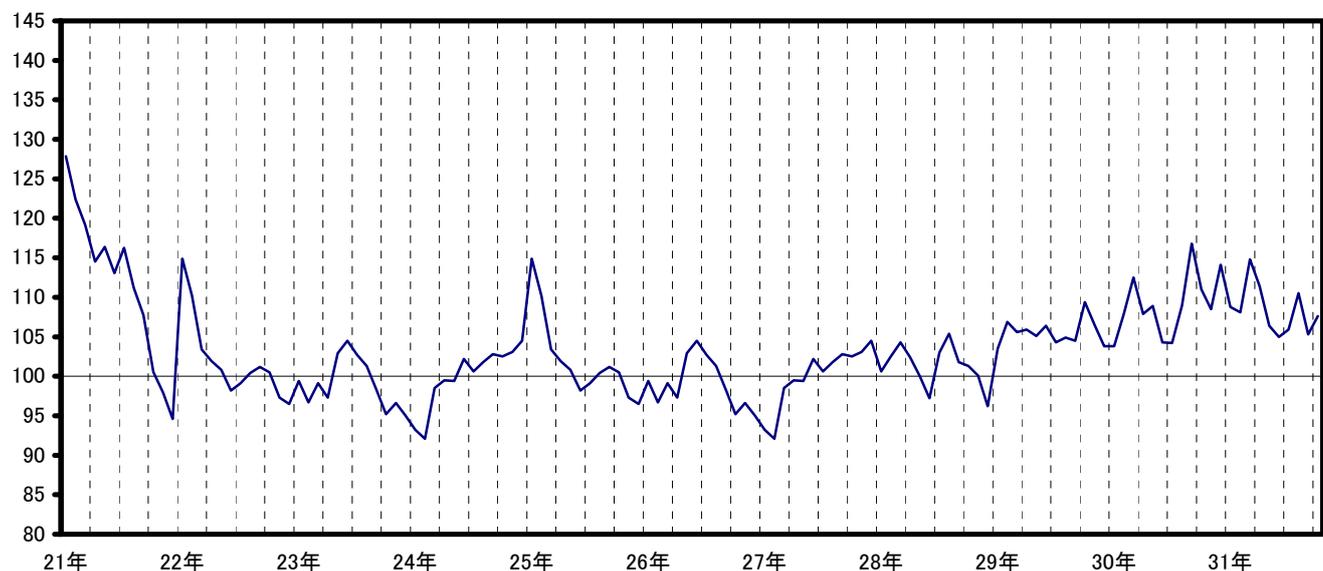
(注)平成27年=100、鋳工業総合、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

鋳工業在庫指数(総合、平成27年=100)

<資料>県統計調査課



雇 用 面

1 雇 用

(1) 有効求人倍率

11月 = 1.45倍

*前月比（季節調整値）：0.06ポイント減

（季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む）

<概 況>

11月の有効求人倍率（季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む）は1.45倍となり、前月を0.06ポイント下回った。また、8か月連続で全国値を下回った。新規求人（学卒、パートタイムを除く）（前年同月比 13.5%減）は15か月連続で前年実績を下回った。

産業別にみると、建設業（前年同月比 2.3%減）が4か月ぶり、製造業（同 25.8%減）が12か月連続、情報通信業（同 3.6%減）が15か月連続、運輸業・郵便業（同 11.8%減）、サービス業（他に分類されないもの）（同 39.1%減）がいずれも7か月連続、卸売業・小売業（同 13.2%減）が2か月連続、医療・福祉（同 1.8%減）が2か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

（単位：倍）

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
県	1.61	1.56	1.56	1.57	1.57	1.54	1.51	1.45
全 国	1.63	1.62	1.61	1.59	1.59	1.57	1.57	1.57

（注）季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む

<資料>厚生労働省

<産業別新規求人前年同月比の推移>

（単位：%）

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
建 設 業	▲ 4.9	▲ 2.2	▲ 7.7	▲ 9.6	0.3	5.2	1.5	▲ 2.3
製 造 業	▲ 6.5	▲ 18.3	▲ 11.2	▲ 7.9	▲ 18.7	▲ 11.7	▲ 20.3	▲ 25.8
情 報 通 信 業	▲ 41.5	▲ 8.4	▲ 24.1	▲ 24.6	▲ 21.6	▲ 28.6	▲ 15.3	▲ 3.6
運 輸 業 ・ 郵 便 業	0.1	▲ 6.2	▲ 3.8	▲ 9.8	▲ 2.9	▲ 3.3	▲ 12.8	▲ 11.8
卸 売 業 ・ 小 売 業	▲ 25.4	▲ 16.2	4.7	▲ 0.9	▲ 12.4	19.0	▲ 12.6	▲ 13.2
医 療 ・ 福 祉	▲ 6.2	▲ 0.4	3.8	0.1	5.7	▲ 1.5	2.0	▲ 1.8
サービス業（他に分類されないもの）	1.7	▲ 29.8	▲ 11.8	▲ 15.4	▲ 16.4	▲ 19.7	▲ 23.8	▲ 39.1
合 計	▲ 5.8	▲ 12.1	▲ 4.7	▲ 5.9	▲ 7.3	▲ 2.7	▲ 12.4	▲ 13.5

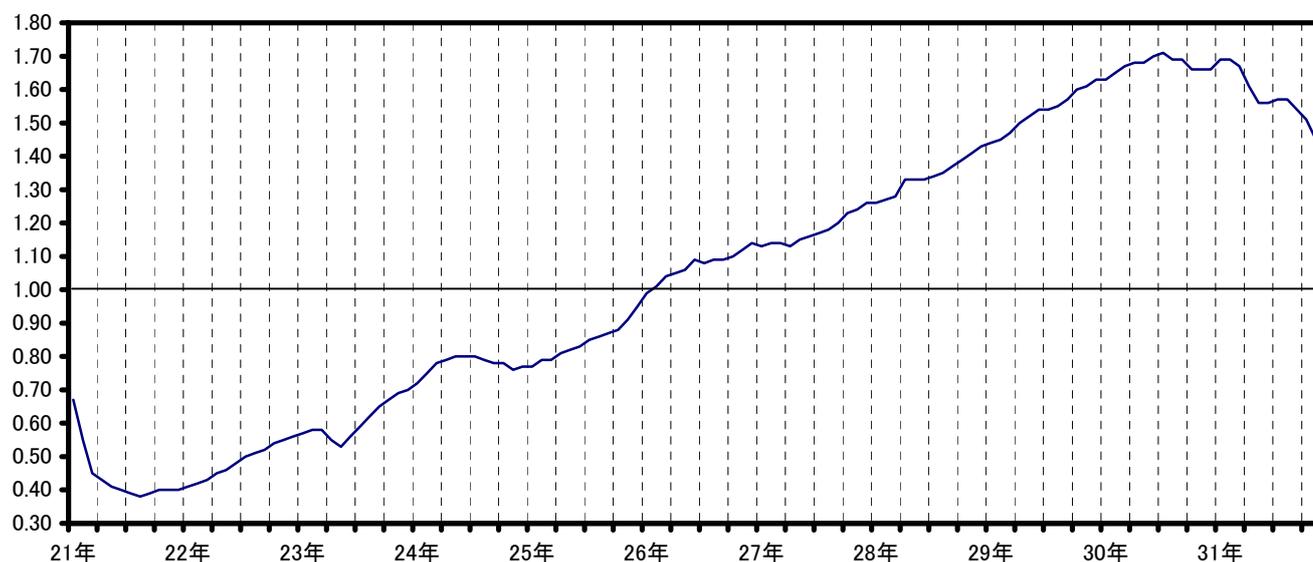
（注）学卒、パートタイムを除く

<資料>厚生労働省

<過去10年間の推移>

有効求人倍率（学卒を除き、パートタイムを含む）（倍）

<資料>厚生労働省



(2) 雇用保険受給者実人員

11月 = 10,895人

*前月比: 5.7%減

*前年同月比: 6.9%増

<概況>

11月の雇用保険受給者実人員は10,895人で、前月比は5.7%減と、3か月ぶりに前月を下回った。また、前年同月比は6.9%増と3か月連続で前年実績を上回った。

完全失業率(全国)は2.2%と前月から0.2ポイント改善した。

静岡県(令和元年7月~9月)の完全失業率は2.1%で、前期(平成31年4月~令和元年6月)から0.1ポイント悪化した。

<最近の動き>

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
実人員(人)	9,725	10,787	10,637	11,426	11,366	11,529	11,551	10,895
前月比(%)	2.7	10.9	▲1.4	7.4	▲0.5	1.4	0.2	▲5.7
前年同月比(%)	5.3	▲0.5	1.2	4.1	▲0.4	8.7	6.1	6.9
(参考)全国前年同月比(%)	6.6	▲0.3	2.1	4.8	▲1.0	3.3	0.2	1.5

<資料>厚生労働省

<参考 完全失業率(全国)の推移>

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
完全失業率(全国)(%)	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	2.4	2.4	2.2

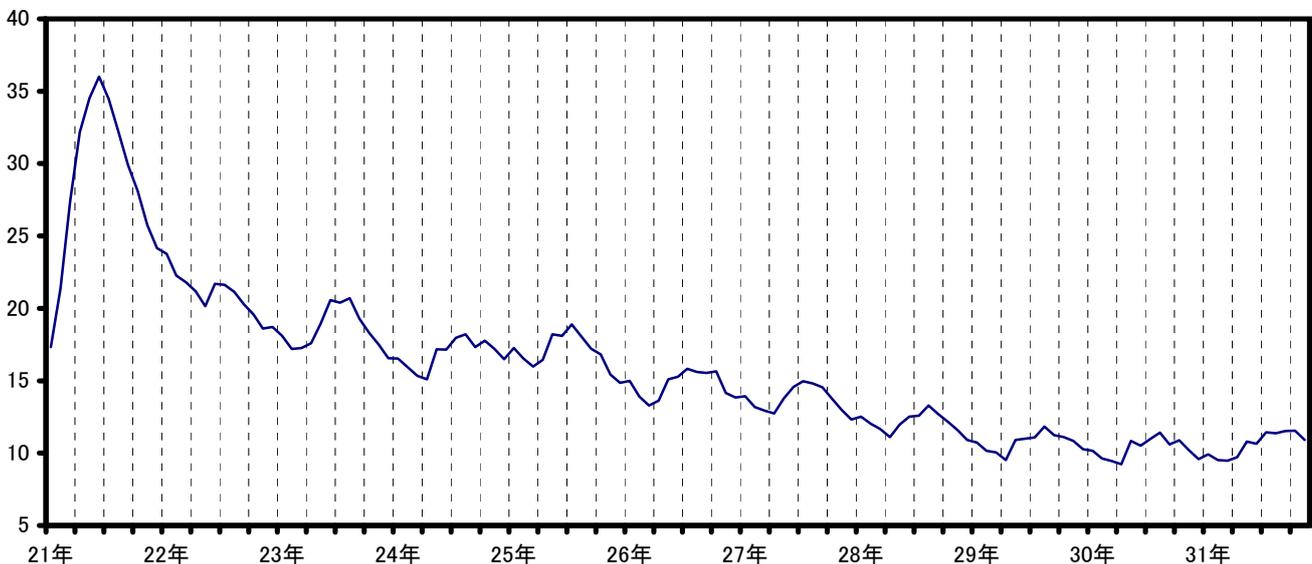
(注)季節調整値

<資料>総務省統計局

<過去10年間の推移>

雇用保険受給者実人員(千人)

<資料>厚生労働省



(3) 所定外労働時間指数

10月 = 85.1

*前月比(季節調整済指数): 2.9%減

(平成27年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、季節調整済) *前年同月比(原指数) : 10.1%減

<概況>

10月の所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、調査産業計)は85.1(季節調整済指数)で、前月比2.9%減となった。また、前年同月比(原指数)は10.1%減と9か月連続で前年実績を下回った。

業種別にみると、建設業(前年同月比152.7%増)が5か月連続、運輸業・郵便業(同3.5%増)が2か月連続、卸売業・小売業(同21.9%増)が12か月連続で前年実績を上回ったものの、製造業(同19.8%減)が12か月連続、情報通信業(同6.7%減)が24か月ぶり、その他のサービス業(同5.7%減)が2か月ぶりに前年実績を下回った。医療・福祉は前年実績と同水準だった。

<最近の動き>

	31年3月	4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月
指数	92.9	92.4	88.0	84.1	88.4	90.9	87.6	85.1
前月比(%)	▲2.4	▲0.5	▲4.8	▲4.4	5.1	2.8	▲3.6	▲2.9
前年同月比(%)	▲1.6	▲1.5	▲8.9	▲11.1	▲8.9	▲3.9	▲3.8	▲10.1
(参考)全国前年同月比(%)	▲0.8	0.8	0.0	▲0.8	▲0.8	▲1.7	0.0	▲2.3

*平成27年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、指数:季節調整済指数、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<県内業種別所定外労働時間指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	31年3月	4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月
建設業	151.5	94.7	▲69.9	103.2	137.8	177.0	177.0	152.7
製造業	▲9.7	▲10.1	▲9.8	▲18.4	▲19.1	▲12.8	▲16.7	▲19.8
情報通信業	60.9	77.5	20.3	25.5	28.9	12.2	12.4	▲6.7
運輸業・郵便業	▲3.6	▲2.4	▲5.5	▲8.1	0.0	0.0	3.3	3.5
卸売業・小売業	4.3	3.6	24.3	10.7	21.2	14.3	15.2	21.9
医療・福祉	40.8	20.9	35.5	▲17.7	▲6.9	▲16.1	23.5	0.0
その他のサービス業	15.6	0.0	21.7	1.4	▲3.7	▲6.6	6.3	▲5.7
調査産業計	▲1.6	▲1.5	▲8.9	▲11.1	▲8.9	▲3.9	▲3.8	▲10.1

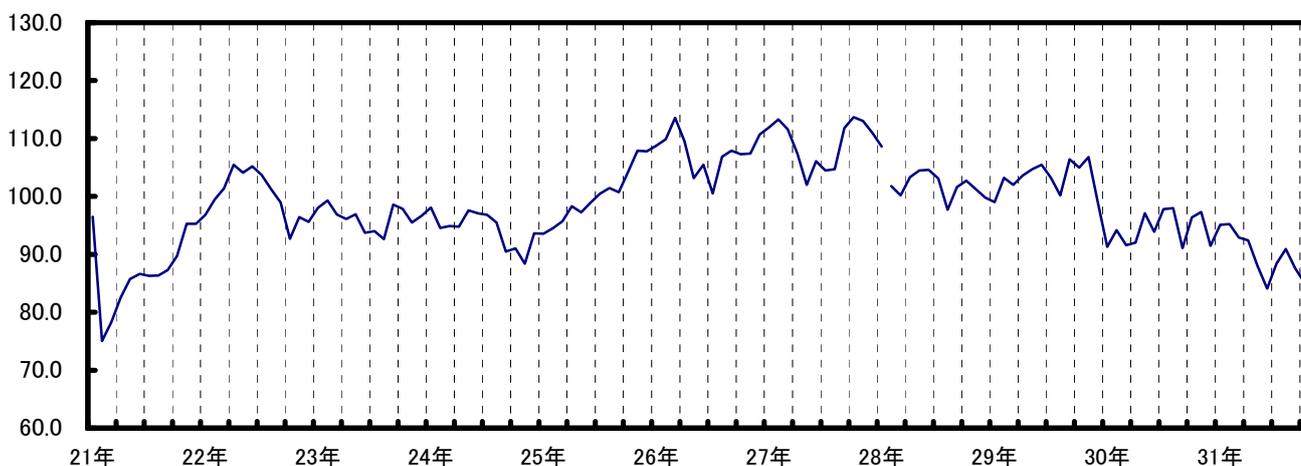
*平成27年=100、事業所規模30人以上、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、平成27年=100)

<資料>県統計調査課



そ の 他

1 物 価

国内企業物価指数

12月 = 102.3

*前月比: 0.1%上昇

(平成27年=100)

*前年同月比: 0.9%上昇

<概況>

12月の国内企業物価指数は102.3となり、前月を0.1%の上昇となった。また、前年同月比は0.9%の上昇となった。

<最近の動き>

	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
国内企業物価指数	101.7	101.2	101.2	100.9	100.9	102.0	102.2	102.3
前月比 (%)	▲ 0.1	▲ 0.5	0.0	▲ 0.3	0.0	1.1	0.2	0.1
前年同月比 (%)	0.6	▲ 0.1	▲ 0.6	▲ 0.9	▲ 1.1	▲ 0.4	0.1	0.9

*平成27年=100

<資料>日本銀行

2 金 融

(1) 県内金融機関貸出残高

11月 = 135,303億円

*前月比: 0.2%増

(銀行、信用金庫)

*前年同月比: 1.5%減

<概況>

11月末の県内の銀行と信用金庫の貸出残高は135,303億円で、前月比は0.2%の増加となった。また、前年同月比は1.5%の減少となった。

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
貸出残高(億円)	136,078	135,374	136,062	135,675	135,630	136,142	134,978	135,303
前月比 (%)	▲ 1.7	▲ 0.5	0.5	▲ 0.2	▲ 0.0	0.4	▲ 0.9	0.2
前年同月比 (%)	▲ 2.2	▲ 2.4	▲ 2.4	▲ 1.9	▲ 1.8	▲ 2.0	▲ 1.7	▲ 1.5

<資料>日本銀行静岡支店

(2) 貸出約定金利

11月 = 1.758%

*前月差: 0.012ポイント減

(県内地銀4行総平均)

*前年同月差: 0.194ポイント減

<概況>

11月の県内地銀4行総平均の貸出約定金利(総合)は1.758%で、前月から0.012ポイントのマイナスとなった。なお、前年同月差は0.194ポイントのマイナスとなった。

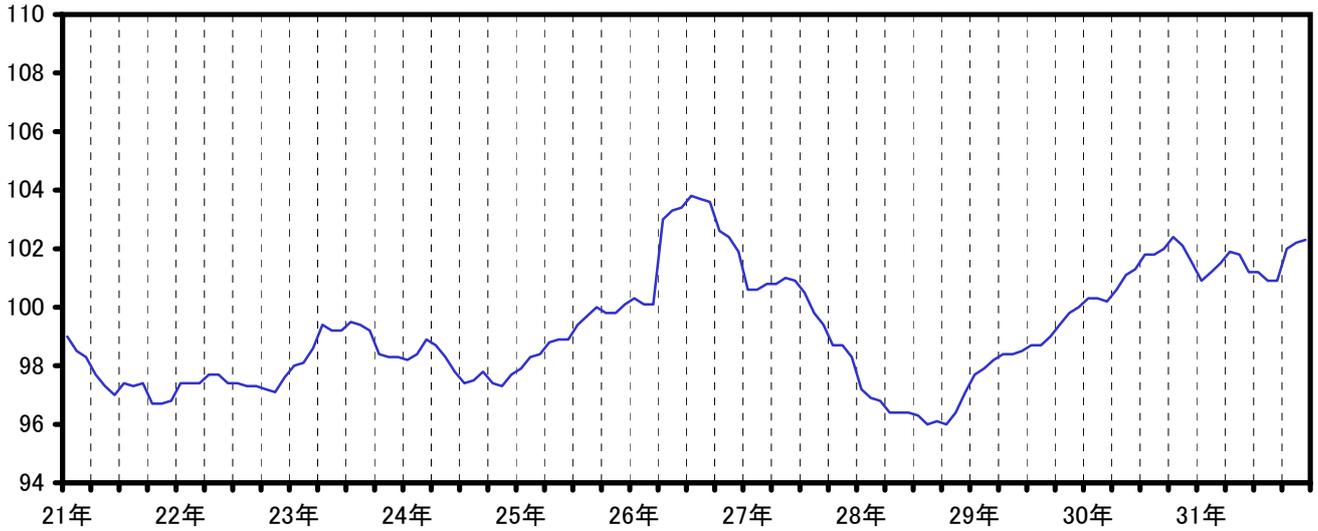
	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
貸出約定金利 (%)	1.844	1.833	1.813	1.794	1.786	1.773	1.770	1.758
前月差(ポイント)	▲ 0.041	▲ 0.011	▲ 0.020	▲ 0.019	▲ 0.008	▲ 0.013	▲ 0.003	▲ 0.012
前年同月差(ポイント)	▲ 0.226	▲ 0.215	▲ 0.209	▲ 0.224	▲ 0.213	▲ 0.204	▲ 0.200	▲ 0.194

<資料>日本銀行静岡支店

<過去10年間の推移>

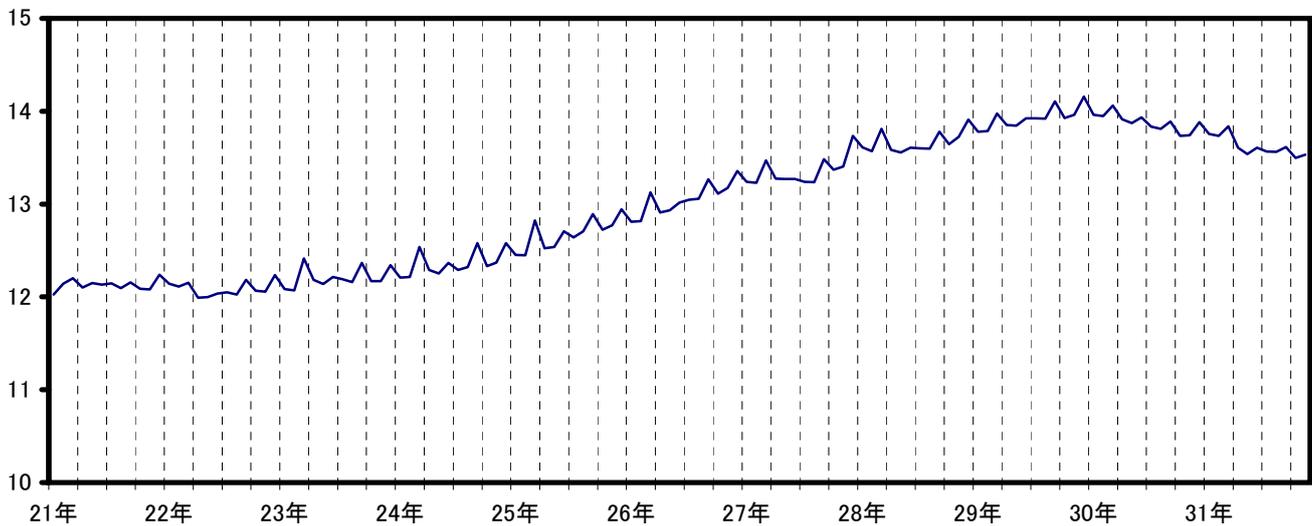
国内企業物価指数(平成27年=100)

<資料>日本銀行



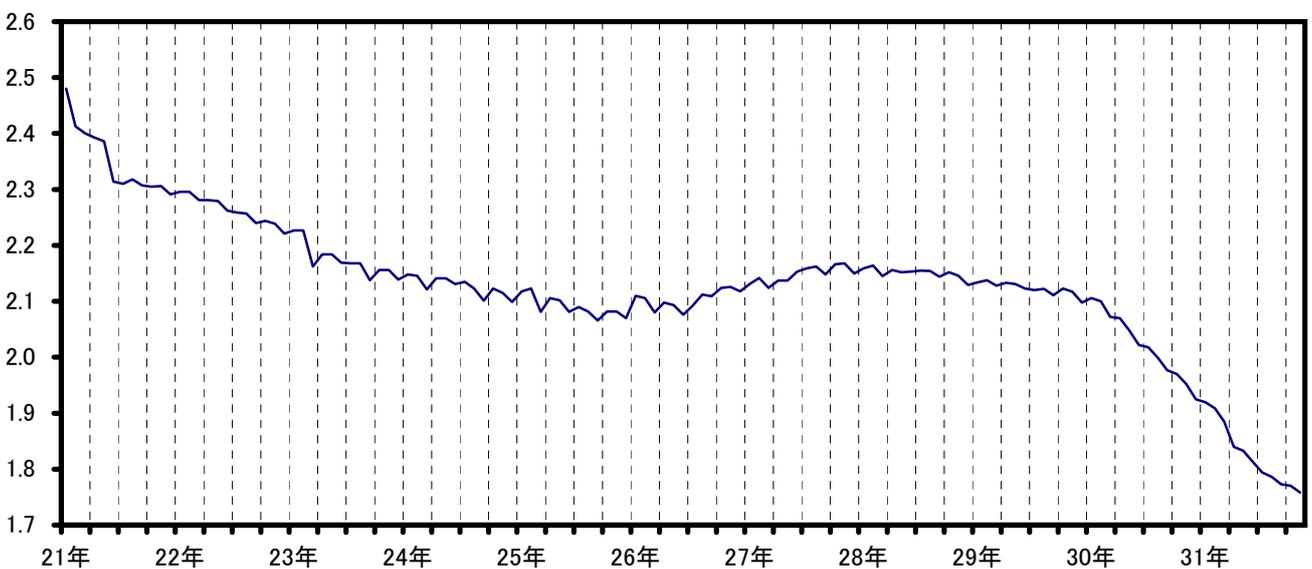
県内金融機関貸出残高(兆円)

<資料>日本銀行静岡支店



県内地銀平均貸出約定金利(%)

<資料>日本銀行静岡支店



(3) 信用保証協会保証金額**11月 = 20,407百万円**

*前年同月比： 14.8%増

<概況>

11月の保証承諾は、金額は20,407百万円（前年同月比 14.8%増）と、3か月連続で前年実績を上回り、件数は2,011件（同 15.3%増）と、2か月連続で前年実績を上回った。

<最近の動き>

	31年4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
保証金額（百万円）	11,215	12,821	14,713	15,500	14,709	18,990	17,473	20,407
前年同月比（%）	▲ 7.2	▲ 28.7	▲ 19.8	▲ 18.5	▲ 15.4	1.8	8.4	14.8
保証件数（件）	1,339	1,406	1,545	1,667	1,617	1,844	1,801	2,011
前年同月比（%）	▲ 5.8	▲ 11.3	▲ 21.1	▲ 13.2	▲ 18.7	▲ 0.8	6.4	15.3

<資料>県信用保証協会

(4) 円相場**12月 = 109.18円/ドル**

*前月差： 0.32円安

（東京・銀行間直物中心・平均）

*前年同月差： 3.27円高

<概況>

12月の東京外国為替市場での対ドル平均円相場（銀行間直物）は109.18円で、前月と比べて0.32円の円安となり、4か月連続で円安となった。

<最近の動き>

	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均相場（円）	109.83	108.06	108.22	106.27	107.41	108.12	108.86	109.18
前月差（円）	▲ 1.83	▲ 1.77	0.16	▲ 1.95	1.14	0.29	0.74	0.32
前年同月差（円）	0.14	▲ 1.97	▲ 3.15	▲ 4.79	▲ 4.48	▲ 4.66	▲ 4.51	▲ 3.27

▲…円高

（注）東京外国為替相場・銀行間直物中心相場・平均

3 企業経営**企業倒産件数****12月 = 12件**

*前年同月比： 29.4%減

<概況>

12月の負債総額 1,000万円以上の企業倒産は、件数は12件（前年同月比 29.4%減）と、前年実績を下回り、負債総額は41,289百万円（同 1558.8%増）と、前年実績を上回った。

原因別にみると、販売不振を原因とするいわゆる「不況型倒産」が10件と全体の83.3%を占め、265か月連続して50%以上となっている。

<最近の動き>

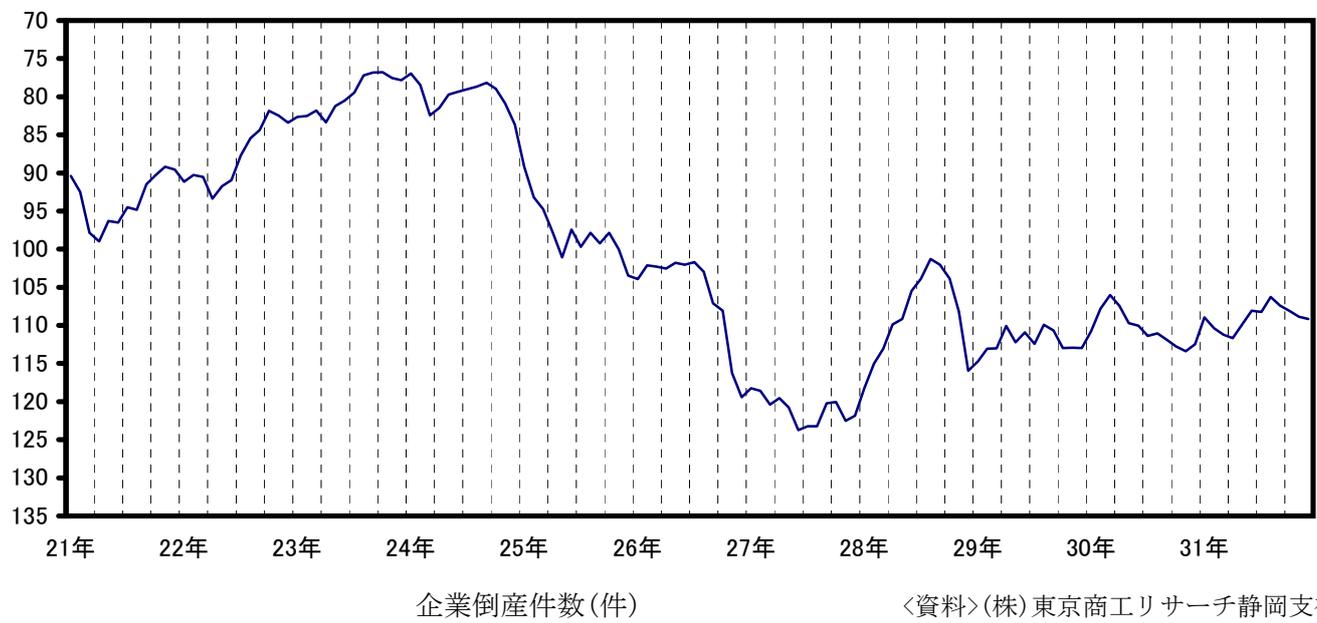
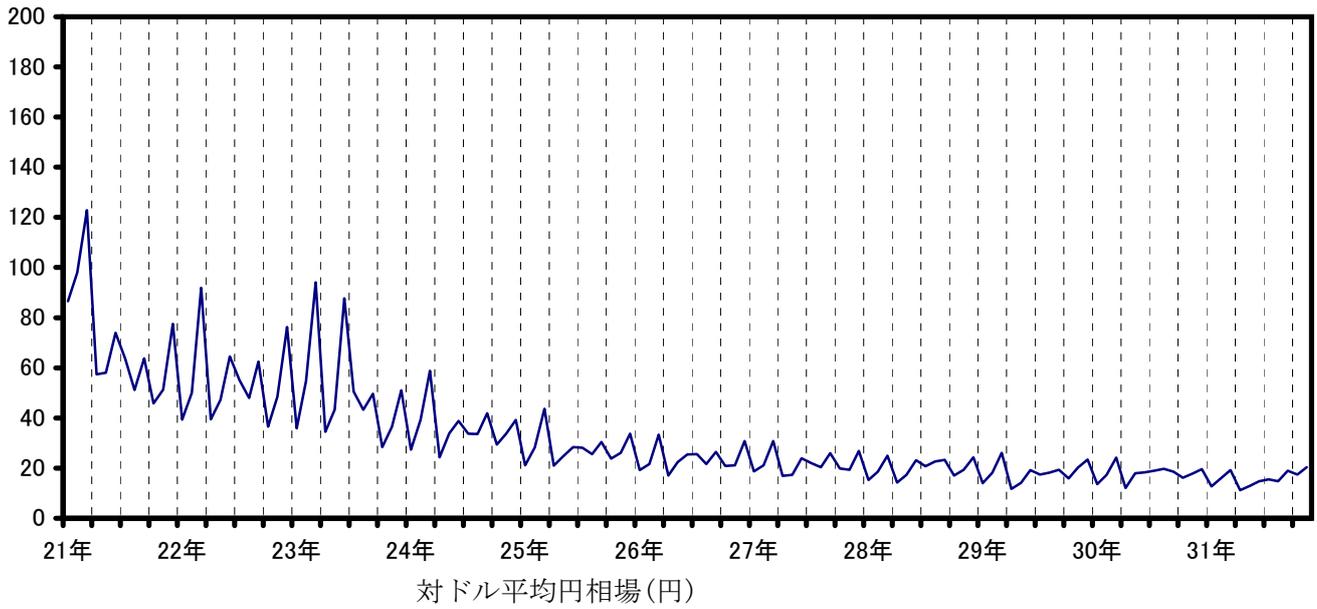
	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
倒産件数（件）	17	14	29	12	20	15	23	12
前年同月比（%）	▲ 29.1	▲ 48.1	81.2	▲ 45.4	100.0	▲ 25.0	35.2	▲ 29.4
うち不況型倒産件数（件）	14	12	26	11	17	11	22	10
負債総額（百万円）	1,847	3,193	3,911	1,458	1,542	1,722	2,905	41,289
前年同月比（%）	▲ 39.7	▲ 40.2	86.3	▲ 37.3	132.9	▲ 51.9	29.8	1,558.8

<資料>（株）東京商工リサーチ静岡支社

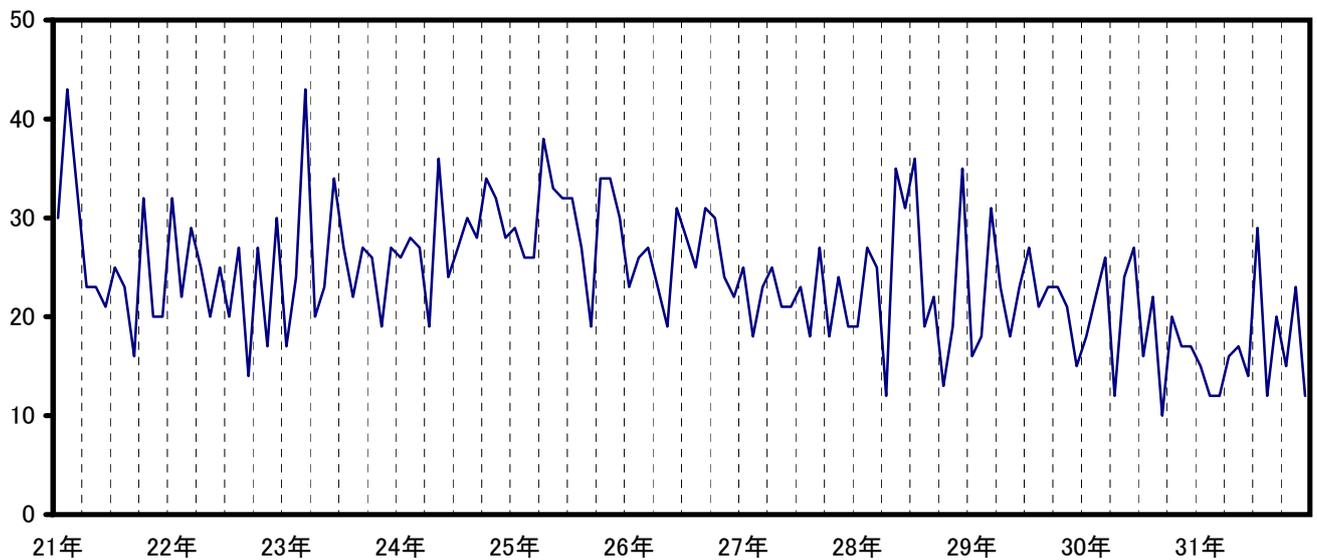
<過去10年間の推移>

信用保証協会保証承諾金額(十億円)

<資料>県信用保証協会



<資料>(株)東京商工リサーチ静岡支社



Ⅲ 令和元年11月を中心とした静岡県主要産業の動向

業 種	産 業 動 向
二 輪 車	<p>10月の国内二輪車生産台数は、51,879台（前年同月比16.6%減）で、2か月ぶりに前年実績を下回った。原付第一種（50cc以下）は、9,255台（同15.3%減）で、3か月ぶりに前年実績を下回った。原付第二種（51cc～125cc）は、4,903台（同40.8%減）で、2か月ぶりに前年実績を下回った。軽二輪車（126cc～250cc）は、4,499台（同26.3%減）で、3か月連続で前年実績を下回った。小型二輪車（251cc以上）は、33,222台（同10.0%減）で、2か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>出荷台数は、国内向けは、27,322台（同18.0%減）で、4か月ぶりに前年実績を下回った。輸出向けは、36,623台（同7.8%減）で、2か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
自 動 車	<p>10月の自動車国内生産台数は、778,590台（前年同月比11.9%減）と、2か月ぶりに前年実績を下回った。輸出は404,811台（同5.2%減）と、2か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>国内生産は、トラックが3か月連続、乗用車が2か月ぶりに前年実績を下回ったことから、全体でも2か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
電気機械	<p>11月の冷蔵庫の国内出荷額は277億円（前年同月比9.0%増）で、3か月連続で前年実績を上回り、国内出荷台数は237千台（同7.2%増）で、3か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>11月のエアコンの国内出荷台数は、家庭向けは419千台（同15.1%減）で、2か月連続で前年実績を下回った。業務用は73千台（同0.6%減）で、14か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>11月の携帯電話の国内出荷台数は、971千台（同39.3%減）で、2か月ぶりに前年実績を下回った。うち、スマートフォンは、693千台（同38.2%減）で、2か月ぶりに前年実績を下回った。単月のスマートフォン比率は71.4%だった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本電機工業会、日本冷凍空調工業会、JEITA/CIAJ</p>
生産用機械	<p>11月の工作機械の受注総額は、816億6,900万円（前年同月比37.9%減）で、14か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>内訳をみると、外需は503億円（同32.1%減）で、14か月連続で前年実績を下回った。アジア向けが199億9,400万円（同29.8%減）で、18か月連続で前年実績を下回った。内需は313億6,900万円（同45.5%減）で、12か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>県内中小企業からは、「親会社の受注状況が悪く、今後も不透明感が強いので先が読めない。」という声や「5GやEVの半導体、設備投資サイクルの回復など今後の需要はありそうだが、雰囲気は悪い。」という声が聞かれた。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本工作機械工業会、静岡県中小企業団体中央会</p>

業 種	産 業 動 向
楽 器	<p>11月の県内楽器メーカーの販売金額は、49億4,821万円（前年同月比13.0%減）で、2か月連続で前年実績を下回った。内訳は輸出向けが26億9,340万円（同 6.4%減）で、国内向けが22億5,481万円（同19.8%減）だった。</p> <p>ピアノ生産台数は3,183台（同 1.3%減）だった。機種別では、アップライトピアノが2,097台（同 2.5%減）、グランドピアノ1,086台（同 1.1%増）だった。また、販売台数は、輸出向けが2,420台（同 5.6%増）、国内向けが983台（同32.2%減）だった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県楽器製造協会</p>
紙	<p>11月の紙・板紙の国内出荷高は、2,021千トﾝ（前年同月比 5.4%減）で、4か月連続で前年実績を下回った。内訳は、紙は1,043千トﾝ（同 6.7%減）で、4か月連続で前年実績を下回った。板紙は977千トﾝ（同 4.0%減）と、2か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>品種別では、主力の印刷・情報用紙が、584千トﾝ（同 6.4%減）で、4か月連続で前年実績を下回った。ティシュペーパー、トイレットペーパー等の家庭紙は、143千トﾝ（同 7.6%減）と、2か月連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本製紙連合会「紙・板紙需給速報」</p>
缶詰・飲料	<p>11月の県内生産量は、食缶類が国内向け1,110千箱（前年同月比 7.3%増）と、4か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>分類別でみると、水産缶（国内向け）は747千箱（同 2.8%増）と7か月ぶりに前年実績を上回った。うち主力であるツナ缶は560千箱（同 1.4%増）と、7か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>農畜産缶（国内向け）は363千箱（同17.9%増）と、6か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>飲料缶類は、国内向けが7,153千箱（同 2.1%増）と、2か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡缶詰協会</p>
織 維	<p>11月の広幅織物の県内生産は、1,530千㎡（前年同月比 11.0%減）で、6か月連続で前年実績を下回った。このうち、綿布が主体の一般広幅織物の生産は、1,456千㎡（同 10.3%減）で、8か月連続で前年実績を下回った。別珍・コールテンの生産は、74千㎡（同 22.3%減）で、26か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>小幅織物の県内生産は、26千㎡（同 14.3%減）で、20か月連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞遠州織物工業協同組合、天龍社織物工業協同組合、浜松織物協同組合</p>
家 具	<p>11月の全国百貨店での家具販売額は、57億702万円（前年同月比 5.5%減）と2か月連続で前年実績を下回った。また、大型量販店での家具・インテリアの販売額は、620億5,325万円（同2.2%減）と2か月連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本百貨店協会、日本チェーンストア協会</p>

業 種	産 業 動 向
小 売 業	<p>11月の県内百貨店・スーパーの販売額は、33,275百万円（既存店前年同月比1.9%減）と前年実績を下回った。品目別では、全ての品目で前年同月の売上げを下回り、身の回り品では前年比1割弱の減少が見られた。</p> <p>県内の食品スーパーへの聞き取りによると、ドラッグストアにおける生鮮食品の取扱いが増えたこと等により顧客の来店回数が減少する中で、野菜の相場安や鮮魚の不漁等も影響し、全ての商品分類において売上げが前年同月を下回った。</p> <p>中部の百貨店への聞き取りによると、10月に比べて持ち直しつつあるものの増税による駆け込み需要の反動が影響し、食料品以外の品目で前年同月の売上げを下回った。食料品は軽減税率が適用されるため、唯一売上げを維持し、前年同月と同水準だった。</p> <p>増税後の反動のほか、ドラッグストアや量販店といった別業態との競合、高額商品から低価格商品への売れ筋の変化、顧客の高齢化といった商業を取り巻く環境の変化が、売上げの減少に影響しているとの声が多く聞かれた。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞関東経済産業局、静岡県地域産業課</p>
観 光	<p>令和元年11月の県内主要10観光施設の合計入込客数は約38万人で、前年同月比2.9%減だった。</p> <p>修善寺虹の郷は、紅葉を目的とした来場者が前年に比べて低調となったが、全体的には例年並みだった。</p> <p>主要有料道路（4路線^{※1}）の合計通行車両数は、約56万台となり、前年同月比1.8%減だった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県観光政策課</p>

＝ IVデータからみた県内主要産業 ＝

<二輪車>

	31年3月	4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
完成車生産台数(台)	21,861	18,909	18,538	17,742	22,023	16,219	24,634	25,844	26,437
前年同月比(%)	12.7	16.5	30.2	15.1	72.3	49.9	14.8	▲ 11.7	0.9
KD輸出額(百万円)	795	863	1,168	931	1,528	959	1,020	1,233	1,576
前年同月比(%)	54.2	14.7	103.6	63.2	159.4	53.7	43.9	58.2	112.2

<楽 器>

	31年3月	4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生産総額(百万円)	3,150	3,308	3,192	3,151	3,617	2,660	3,000	3,283	3,211
前年同月比(%)	2.5	6.4	1.1	▲ 0.9	13.5	▲ 3.9	8.4	▲ 5.6	▲ 4.1

<缶詰>

	31年3月	4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
食缶生産高(千ケース)	1,008	1,001	890	946	1,071	901	937	1,036	1,110
前年同月比(%)	0.0	5.8	▲ 7.3	▲ 1.8	7.6	▲ 6.7	▲ 0.6	▲ 0.7	7.3
うち水産缶詰(%)	0.7	5.9	▲ 9.1	▲ 7.8	▲ 2.9	▲ 13.3	▲ 6.6	▲ 5.9	2.8
農畜産缶詰(%)	▲ 1.2	5.5	▲ 3.2	11.9	32.8	10.0	14.9	11.7	17.9
飲料缶生産高(千ケース)	7,730	7,745	8,036	8,279	8,377	6,578	6,904	6,575	7,153
前年同月比(%)	11.2	12.7	0.1	12.0	17.3	▲ 11.2	1.9	▲ 4.5	2.1

<織 維>

	31年3月	4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
広幅織物(千㎡)	1,358	1,278	1,206	1,163	1,096	1,070	1,307	1,370	1,530
前年同月比(%)	2.0	0.4	2.6	▲ 1.1	▲ 3.7	▲ 6.9	▲ 2.7	▲ 8.4	▲ 11.0
小幅織物(千㎡)	26	27	26	26	24	20	23	26	26
前年同月比(%)	▲ 24.9	▲ 12.7	▲ 14.8	▲ 7.3	▲ 12.3	▲ 14.7	▲ 16.5	▲ 10.8	▲ 14.3

<観 光>

	31年3月	4月	R元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
観光施設(10施設)入込 (千人)	480	557	651	327	304	514	371	313	382
前年同月比(%)	▲ 6.3	8.2	21.4	8.4	6.0	▲ 3.2	4.7	▲ 15.9	▲ 2.9
有料道路(4路線 [※])通行量 (千台)	780	719	760	659	726	881	714	495	556
前年同月比(%)	▲ 0.3	2.8	5.7	0.4	▲ 3.4	▲ 1.1	5.8	▲ 9.4	▲ 1.8

※令和元年9月までは5路線、令和元年10月以降は4路線

本書で掲載している県内の主要統計資料の時系列（過去10年間）のデータは静岡県公式ホームページの「統計センターしずおか」で公表しています。

静岡県公式ホームページ⇒統計・調査⇒統計センターしずおか⇒県内主要統計指標
<http://toukei.pref.shizuoka.jp/>

需要面	生産面	雇用面	その他
・大型小売店販売額	・鉱工業生産指数	・有効求人倍率	・国内企業物価指数
・専門量販店等販売額	・鉱工業在庫指数	・雇用保険受給者実人員	・県内金融機関貸出残高
・自動車新規登録台数		・完全失業率	・信用保証協会保証金額
・新設住宅着工戸数		・所定外労働時間指数	・企業倒産件数
・清水税関支所管内輸出額			
・清水税関支所管内輸入額			

提供いただいている資料

資料名	提供元	ホームページアドレス
公共工事請負金額	東日本建設業保証（株）	http://www.ejcs.co.jp/region/index.html
設備投資	日本銀行静岡支店	http://www3.boj.or.jp/shizuoka/kouhyou/hyousi_f.html
貸出約定金利		
国内企業物価指数	日本銀行	http://www.boj.or.jp/type/statat/boj_stat/index.htm
円相場		

参考となる全国の資料等

資料名	提供元	ホームページアドレス
鉱工業生産指数	経済産業省	http://www.meti.go.jp/statistics/index.html
大型小売店販売額		
専門量販店等販売額		
輸出入	財務省	http://www.mof.go.jp/siryou.htm
国際収支		
機械受注	内閣府	http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/juchu.html
完全失業率	厚生労働省	http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/index.html
有効求人倍率		

静岡県月例経済報告

令和2年1月号 通巻525号

発行 静岡県経済産業部
令和2年1月

編集 経済産業部政策管理局産業政策課
〒420-8601
静岡市葵区追手町9-6
TEL 054-221-2635
FAX 054-221-3217
E-mail sangyo-seisaku@pref.shizuoka.lg.jp
URL <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/>